

- 問1 1972年に田中角栄首相が訪問し、日中共同声明に調印して国交を正常化した都市を何という？
- 問2 第一次世界大戦後に設立されたものの、第二次世界大戦を食い止めることができず解体された国際組織を何という？
- 問3 朝鮮戦争を機に、GHQの占領政策がそれまでの民主化重視から共産主義を抑え込む方針へと転換されたことを何という？
- 問4 1972年に田中角栄首相が中国を訪れ、両国間の国交が回復した出来事を何という？
- 問5 1950年に起きたある戦争の影響で、日本国内の治安維持のために創設された組織を何という？
- 問6 1956年に日本と国交を正常化させた相手国はどこ？
- 問7 太平洋沿岸に建設され、原料の輸入や製品の輸出を有利にするために作られた、製鉄所や工場が集まる巨大な施設を何という？
- 問8 1950年代半ばから1970年代初めにかけて、日本の主力産業となった鉄鋼や機械などの産業分野を何という？
- 問9 1955年のバンドン会議において、アメリカやソ連のいずれの陣営にも属さない国々が団結し、国際的な発言力を高めようとしたグループを何という？
- 問10 1950年代後半から1970年代初めにかけて続いた、日本の国民総生産が急激に伸びた時期のことを何という？
- 問11 沖縄返還の背景として、当時アジアで激化していた戦争の際に、沖縄に大規模な基地を置いていた組織を何という？
- 問12 第二次世界大戦後、世界の平和と安全を維持するために1945年に設立された国際組織を何という？
- 問13 1956年に日本が加盟を認められた、平和と国際協力を目的とする国際組織を何という？
- 問14 朝鮮戦争の際に日本へ大量の軍需物資を発注し、特需景気をもたらした組織は何か？
- 問15 第二次世界大戦後、アメリカを中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営が繰り広げた、直接的な武力衝突を伴わない対立状態を何という？
- 問16 1951年のサンフランシスコ平和条約に全権として調印し、戦後の日本の国際社会復帰を導いた首相は誰？
- 問17 1954年の自衛隊発足当時、日本が国際社会へ復帰し、驚異的な経済発展を遂げた期間を何という？
- 問18 1970年、日本で初めて国際博覧会として開催され、科学技術の進歩を世界に示すきっかけとなった出来事を何という？
- 問19 1955年のアジア・アフリカ会議で採択された、平和と協力に関する10の原則を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 北京	1972年、田中角栄首相が中国の北京を訪問し、毛沢東主席や周恩来首相と会談しました。この結果、日中共同声明が発表され、日本と中国の国交が正常化されました。
問2	答え 国際連盟	本部はスイスのジュネーブに置かれました。世界平和の維持を目的としましたが、提唱国のアメリカが議会の反対で参加せず、ドイツやソ連などの参加も遅れるなど、組織としての力に限界がありました。
問3	答え 逆コース	この政策転換により、かつて追放された人々が公職に復帰し、国内の治安維持のために警察予備隊が作られました。これまでの民主化重視から、共産主義勢力を取り締まる方向へと流れが変わったことを意味します。
問4	答え 日中国交正常化	1972年、田中角栄首相が北京を訪問しました。当時の中国指導者であった毛沢東や周恩来首相と会談し、「日中共同声明」を発表して国交を正常化させました。これにより、日本は台湾の政府との関係を解消し、中華人民共和国を中国の唯一の合法政府として承認しました。
問5	答え 朝鮮戦争	1950年、北朝鮮軍が38度線を越えて韓国に侵攻し戦争が勃発しました。この事態を受け、日本国内では占領軍の戦力が減ったため、治安維持を目的として警察予備隊が組織されました。
問6	答え ソビエト連邦	鳩山一郎首相がモスクワに赴き、日ソ共同宣言に署名したことで両国の戦争状態は終結しました。これにより、長年の懸案であった外交関係が回復し、両国は平和と善隣友好の関係を築くことを約束しました。
問7	答え 石油化学コンビナート	原料を運び込みやすい海沿いに、製油所や化学工場などを一つの地域に集めた「石油化学コンビナート」が建設されました。これらが太平洋沿岸に連なり、太平洋ベルトと呼ばれる巨大な工業地帯が形成されました。
問8	答え 重化学工業	重化学工業とは、鉄鋼、石油化学、自動車、機械など、原材料を加工して製造する産業の総称です。それまでの繊維産業を中心とした構造から転換し、大量生産・大量消費の時代を支えました。この時期の日本は世界有数の経済大国へと成長を遂げました。
問9	答え 第三勢力	このような状況下で、アジア・アフリカ諸国はどちらの陣営にも属さない立場を表明しました。これが「第三勢力」と呼ばれます。1955年にインドネシアで開催されたアジア・アフリカ会議（バンドン会議）は、この勢力が団結を示す大きな転換点となりました。
問10	答え 高度経済成長	神武景気やいざなぎ景気など、長期間にわたる景気拡大が続き、家電製品や自動車の普及が急速に進みました。この驚異的な成長を「高度経済成長」と呼びます。
問11	答え アメリカ軍	沖縄はベトナム戦争において、爆撃機の出撃や補給などを行うための最前線拠点として利用されました。そのため、住民の生活よりも軍事運用が優先される状況が続きました。
問12	答え 国際連合	1945年に「国際連合憲章」が採択され発足しました。本部はアメリカのニューヨークに置かれ、総会や安全保障理事会などが主要な機関です。国際連盟とは異なり、アメリカやソ連（当時）などの主要国も当初から参加したことが大きな特徴です。
問13	答え 国際連合	1956年の日ソ共同宣言によってソ連との関係が改善されたことで、日本は国際連合への加盟が承認されました。これ以後、日本は国際社会の一員として、外交活動を積極的に展開するようになりました。
問14	答え アメリカ軍	日本国内に駐留していたアメリカ軍は、食料や衣類、車両の修理などを日本の民間企業に発注しました。これにより、倒産寸前だった日本企業が息を吹き返し、国内経済が急激に活性化しました。
問15	答え 冷戦	冷戦は、軍事的な直接衝突を避けながら、兵器開発や宇宙開発、あるいは各国の政情への介入などを通じて行われた世界的な対立構造です。
問16	答え 吉田茂	吉田茂は内閣総理大臣として、アメリカを中心とする連合国との間でサンフランシスコ平和条約に調印しました。これにより日本は主権を回復し、国際社会への復帰を果たしました。
問17	答え 高度経済成長期	1955年頃から1973年の石油危機までの約20年間、国民総生産（GNP）が急増し、世界第2位の経済大国となりました。国民生活においても冷蔵庫・洗濯機・白黒テレビの「三種の神器」が普及しました。
問18	答え 大阪万博	正式名称は日本万国博覧会で、世界中の国々が参加し、最新の技術や文化を紹介しました。多くの日本国民が来場し、科学技術に対する関心が高まりました。
問19	答え 平和十原則	インドネシアのバンドンで開かれた会議において、植民地主義への反対や、人種差別の撤廃、主権の尊重などを盛り込んだ「平和十原則」が採択されました。